

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	相模女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	サガミジョシダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	海外インターンシップ I・II
	学部・研究科等名	学芸学部英語文化コミュニケーション学科
	担当教職員名・役職	九里徳泰教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	1
	受入企業等名	米軍座間キャンプ
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1.正社員と同じ制服、ネームプレートを付けてサービス、ホスピタリティビジネスの業務実習を行う。2.宿泊施設を核とした地域活性化事業創出のPBLを行い、市場のニーズ調査をインターンシップ生が主体となり実施し、企画・立案を行い、インターン先の企業や地域の関係者等の前でプレゼンテーションを行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次秋学期～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	2年生秋学期～4年生を対象に、1週間～1ヶ月程度のインターンシップを専門教育科目「海外インターンシップ I・II」として実施している。本科目では、海外での職場体験を通して、グローバル社会で求められる職業観と自立性並びに社会性を養い、異文化に対する理解を深める。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修前には研修地及び各自が研修を希望する業界・企業に関する基礎的な知識を得るとともに、現場で必要とされる最低限のマナーとコミュニケーションスキルを身につける。(全7回)
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップと自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的で、実習終了後、研修記録を元に、自らの経験をレポートにまとめ、口頭でのプレゼンテーションを行う。また、他の履修者や次年度履修希望者にフィードバックを行う。(全6回)
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	海外でのインターンシップのため、現地コーディネーターが毎日インターン生と連絡をとり、適切な業務遂行に向けたフィードバックをおこなっている。大学の教員がインターンシップ終了直後に学生と面談を行い、学生がインターンシップ中に作成した日誌を用いながら、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学の教員がインターンシップ終了直後に学生と面談を行い、学生がインターンシップ中に作成した日誌を用いながら、事前学習の際に設定したインターンシップ中の目標達成に向けた指導を行っている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している

要素⑤	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10日～1ヶ月
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	アメリカやアジアの各企業にて、1ヶ月程度のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンの結果を授業でプレゼンテーションを行い学生と共有し、ディスカッションを行っていて、自分のインターン中の行動を客観的に把握できるようにしている。報告書は25ページと、卒業論文に近い分量の提出を行っている。また、民間のアセスメントテスト「PROG」を用いて、学生のインターンシップ前後の変容を客観的に把握し、学生の自己理解を促している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://smilesagami.sagami-wu.ac.jp/campusweb/top.do
問い合わせ先	大学等名	相模女子大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	042-747-9564
	メールアドレス	shinsei@isc.sagami-wu.ac.jp